

- ▶ 林業担い手の不足や高齢化が進行する中で、自伐型林業や集落で地域の林業を守ろうとする集落林業を実践しており、新たな林業担い手の一形態として期待されている。しかしながら、林業の知識や経験が少ないことから、その取り組みを後押しする必要がある。
- ▶ そのため、チェーンソーなどの林業機械の操作や現地研修、間伐等が必要な森林の集約化や搬出間伐の実践、作業路の開設を通じて森林資源の健全な管理を行った。

□ 技術研鑽研修事業

森林整備に必要な間伐施業や作業道の開設などの技術研修を支援

研修に伴う講師料や原材料費：50,000円／1回（上限2回）

【事業実績】 1回（間伐施業、作業道整備）

【補助金額】 50千円（うち譲与税20千円、その他30千円）

□ 条件整備事業

林内作業車又は軽トラックが走行できる作業路の開設支援

開設工 860円／m（延長当たり、定額）

路肩工（丸太組工） 8,000円／㎡（施工断面積当たり、定額）

【事業実績】 開設工：L=550m 路肩工：A=34㎡

【補助金額】 745千円（うち譲与税200千円、その他545千円）

□ 搬出間伐事業

木材を利用する搬出間伐（10㎡以上搬出すること）の実践に係る費用を支援136,000円／ha（①の集約化を通して行う場合、定額）

54,000円／ha（上記以外の場合、定額）

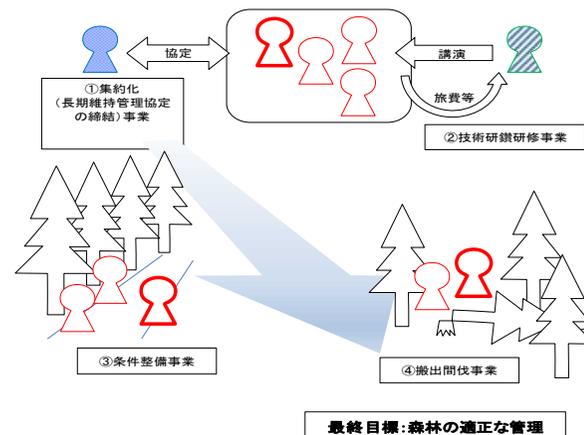
【事業量】 間伐面積：A=6.2ha

【補助金額】 580千円（うち譲与税155千円、その他425千円）



間伐施業技術研修

□ 事業スキーム



□ 工夫・留意した点

林業の未経験者や経験の少ない山林所有者を呼び込み、林業施業の基礎を学ぶ研修として位置付け事業に取り組んだ。

□ 基礎データ

①令和3年度譲与額	106,696千円
②私有林人工林面積（※1）	20,395ha
③林野率（※2）	84.7%
④人口（※3）	118,394人
⑤林業就業者数（※4）	307人

※1、2：「2020農林業センサス」より、※3：「R2国勢調査」より

※4：「H27年国勢調査」より